

第 202 回 日本知能情報ファジィ学会理事会議事録

日時：2014 年 8 月 27 日（水） 13:00～21:00

場所：大阪工業大学うめきたナレッジセンター（〒530-0011 大阪市北区大深町 3 番 1 号）
（グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル タワーC 9 階 セミナー室 1）

出席者：馬野（会長）、林（副会長）、中嶋（副会長）、秋山（賞選考）、乾口（将来構想）、
井上（会計）、工藤（大会事業）、徳丸（事業）、関（広報）、前田（庶務、会誌）、
安信（会計監事）

欠席者：佐藤（他学会連携）、星野（電子化検討）、和多田（事業監事）、
三河（オブザーバ：編集委員長）

1. 前回議事録の承認（資料 202-0）

第 201 回理事会の議事録の確認を行い、承認された。

2. 理事会メーリングリスト報告済事項の確認

理事会メーリングリストで既に報告されている以下の事項の確認および報告がなされた。

(1) 学会賞選考委員会からの報告について（秋山）（資料 202-1：当日配布）

- ・秋山理事より、選考委員会で審議された学会賞候補者について報告があった。論文賞 2 件、FSS2013 での発表に対して奨励賞 3 件（うち IEEE-CIS 1 件）、著述賞 1 件、貢献賞 FSS2013 実行委員会、功績賞 2 件（ML で議論済み）との報告がなされた。
- ・貢献賞は、古殿先生（実行委員長）から FSS2013 関係者全員に依頼していただくことになった。また、実行委員であれば会員でなくても表彰することが了承された。

(2) FSS2014 の表彰式について（秋山、徳丸）（資料 202-2）

- ・引き続き秋山理事より、FSS2014 での表彰式で使用する PowerPoint 資料の説明がなされた。また、資料中の文言の修正も全員で行った。

(3) 理事会だよりについて（馬野）（資料 202-3）

- ・馬野会長より、今回の理事会だよりの記事についての報告がなされた。次回は中嶋副会長がメインの話題を執筆することになった。

(4) 会計理事からの報告（井上）（資料 202-17：当日配布）

- ・井上理事より、7 月末現在の会員数の報告があった。
- ・拡大事業委員会にて会計理事からの依頼事項として、以下の 2 点を各研究グループに行ってはどうかとの提案があった。

1) 各研究グループの決算時の通帳コピーと監査報告書の提出について

会計監査を行うにあたり、収支報告書だけでは把握できないところがあるので、今年度末（3/31 時点）から各研究グループに通帳コピーを提出してもらうことを拡大事業委員会をお願いすることについて了承された。研究グループ内での監査報告書は来年度から提出してもらうことになった。

2) 支部交付金について

現在、交付金は各支部の構成員の数に応じて配分されているが、事務局が支部単位で管理していないため、現状では正確な数値が把握しにくい。本件については、支部に対する考え方と今後の方向性に関わる話なので、拡大事業委員会ではなく、フォーラムで意見を聞いてみることになった。

3. 理事会メーリングリスト審議済事項の確認

理事会メーリングリストで既に審議されている以下の事項の確認と審議がなされた。

(1) 第 1 回将来構想フォーラムについて（中嶋、乾口、星野）（資料 202-4）

- ・中嶋副会長から、将来構想フォーラムの現状について、各支部長と将来構想委員会を中心に開催方

針が固まったことが報告された。現時点で19名の先生が参加される予定。

- ・9月3日の夕食の費用は予算に入っていなかったため、当初予定より8万円くらい(20名分)プラスする必要あるとの説明があった。フォーラムの費用については学会で負担すべきで、招待者には原則いただかないことが確認された。

・フォーラムの様子はビデオ撮影を行って議事録用に残しておくことも報告された。とりあえずお聞きした意見をすべて記録しておいて、その後、理事会で検討すればよいのではとの意見が出された。

(2) 今後の検討事項の担当理事について(馬野、林)(資料202-5)

- ・林副会長から6項目の重要懸案事項についての説明があった。これらについては、将来構想フォーラムの1日目で活用してはどうかとの提案があった。懸案事項の各担当者は、フォーラム向けにA4一枚程度のメモ書きを事前に用意したほうが良いとの意見も出された。

・徳丸理事より、支部と研究部会の分離については事業委員会でも議論したことが報告された。概ね分けたほうが良いという意見が多かったが、これについてもフォーラムで報告することになった。

・フォーラムでは、基本的には理事会の意見を強く出さずに自由に意見を聞く方針が確認された。アンケート結果をもとに、現状の会員にはどのような意見が多いかについて説明してから、それを基に議論を始める。さらに今回の結果を受けて、理事会が来年の総会までに実際に動くようにする。

(3) 臨時総会・臨時評議員会の議事予定について(前田、林)(資料202-6)

- ・前田理事より、FSS2014最終日に開催される臨時総会と臨時評議員会の開催案内(案)について説明があった。臨時総会と臨時評議員会で分けて開催案内を作成することになった。

・臨時総会案内については学会ホームページと学会メーリングリストに広報担当理事から流し、臨時評議員会案内については学会事務局に依頼して評議員全員にメール配信していただくことになった。

(4) 東レ科学技術賞・研究助成推薦依頼について(林、前田)(資料202-7:当日配布)

- ・林副会長から理事会メーリングリストで議論した推薦者の推薦文についての説明があった。

・被推薦者は、ニューロ関係のウェットウェアを扱っており、今後ファジィ制御を取り入れたいと考えている研究者で、申請額は2500万円との説明がなされた。本件について、理事会で承認された。

(5) 横幹連合総合シンポジウムへの講演推薦について(前田)(資料202-14)

・前田理事より、表記の推薦について事務局から依頼のあったことが報告された。審議の結果、特に推薦すべき講演がないため、今回の推薦は見送ることになった。

(6) FSSとSCISのルーチンワークの整理について(工藤)(資料202-8:当日配布)

- ・工藤理事より、FSSについては今回から支部丸投げをやめたことが報告された。これまでよりも役割分担が複雑になってきたので、ワークフロー(案)を作成し、それについての説明がなされた。

・工藤理事の原案ではJ-Stageへの登録作業を大会事業委員会に投げてはどうかとの説明があった。毎年、J-Stageへの登録作業を外注に出したいという意見が出るが、ここでは登録のためのエクセルファイルを作成する作業がメインになる。また、大会引き継ぎ作業も大会事業委員会が関与すると、資料が貯まっていくためノウハウが蓄積されるので良いのではないかとの説明がなされた。

・林副会長より、次期理事会からは専門の理事を決めて、大会事業担当を作ってはどうかとの意見が出された。

・徳丸理事より、毎年FSSでは所属に部署まで入力する人が多く、その削除に手間がかかるとの報告があった。例えば、SNSの大会管理システムの大改造をして所属と部署を入力するようにすることも可能であるが、お金がかかるとの説明もあった。

・林理事より、FSSの引き継ぎ資料自体もマニュアル化するなどの方向で引き継ぎやすい形を考えてほしいとの意見が出された。さらに、会計担当者の負担をなくすために、受付に事務局担当者に来てもらうことも考えてはどうかとの意見もあった。

・工藤理事より、SCISについては、まだあまり整理ができておらず、ほとんど進んでいないとの報告があった。現時点ではポスター印刷(ニッセイエブロー)、協賛学会依頼、会計委託(京王観光)く

らいが事務局に委託できる業務であるとのこと。

(7) IFSA2017 開催準備について (林) (資料 202-9)

- ・林副会長より、IFSA2017 の主な役員として、乾口先生 (大阪大)、井上先生 (EWA) がプログラム担当、渡邊先生 (大阪電通大) が会計担当として決まっているとの説明があった。
- ・馬野会長より、まずは準備資金が必要であるので、理事会で準備しても良いとの話があった。IFSA1017 の準備金として SCIS 相当 (100 万円) を貸し出すことに決まった。
- ・林副会長より、IFSA の大会ホームページを学会サーバにアップして使っても良いかどうかとの相談があったが、関理事からは SNS を改造する場合、費用が発生する可能性があるため、それによって決まるとの回答がなされた。これに関して工藤理事からは、現在 SCIS2014 は独自ドメインでホームページを立ち上げていることが報告され、サーバ設定作業が発生すると費用がかかるので注意する必要があるとの説明が関理事からあった。

(8) ANGLE 活性化とファジィ学問塾について (徳丸) (資料 202-10)

- ・徳丸理事より、今年のファジィ学問塾は 11/29-30 に琵琶湖の温泉宿で開講することが決定しているとの報告があった。ファジィ学問塾は今年で 10 年目であるが、発足当初から 10 年目をメドに今後どうするかを検討することになっていた。ただ、現状では参加者にも好評なので、今後も継続していきたいとの説明があった。
- ・また ANGLE についてはここ数年間メンバーがいなかったため、協力してもらえないことも報告された。最近では FSS でも企画セッションはない。しかし、関東では若手の研究会をやっているようである。
- ・徳丸理事より、現在、廣田研の D3 学生が ANGLE 代表を務めているが、研究室がなくなるため引き継ぎ手がないので、代表職を返上したいとの連絡があったことが報告された。そのため、今後は事業委員の中で ANGLE 担当を決め、ANGLE 担当委員の研究室から代表を出して、スムーズに引き継ぐようにすることが事業委員会で決まったことが報告された。
- ・徳丸理事からは、ANGLE がきちんと運営されればファジィ学問塾も ANGLE 主導で行うことにしてはどうかとの意見があった。その際にはもちろん事業委員会も協力する。

(9) 学会カレンダーについて (徳丸) (資料 202-11)

- ・徳丸理事より、表記の件について事業委員会で検討したことが報告された。学会ホームページのトップにすべてのイベントがわかるようにカレンダーを作ることについて、拡大事業委員会で報告をしたいとのこと。各研究グループで出されている事業計画をそのまま掲載することについては、できる限り早めに企画してもらって研究部会の予定を提出してもらう予定であるとの説明があった。
- ・関理事から、学会カレンダーのサンプル (たたき台) が紹介された。日程が決定しているイベントのみカレンダーに記載して、未定のものについては別の場所に記載してはどうかという意見も出されたが、最終的には月別にまとめて記載し、未定 (予定) も同じカレンダーに入れることになった。カレンダーには、開催日、イベント名、開催地、主催、等を記載することになった。
- ・徳丸理事から、日程が確定したときの連絡方法も検討する必要があるとの説明があった。できる限り上半期でイベントの日程と場所は決めてほしいと拡大事業委員会をお願いする予定であることも報告された。

(10) 出前キャラバンについて (徳丸) (資料 202-12)

- ・徳丸理事より、表記の件について事業委員会で審議したことが報告された。当初は、大学の出前講義のようなものを想定していたが、高校や大学から果たして依頼が来るのかどうかについては少々考えにくい。そのため、ファジィやソフトウェアの啓蒙ではなく、研究者とは何か、学会とはどういうものか、国際シンポジウムはどのようなところか、などを説明しても良いのではいかとの意見があった。
- ・徳丸理事からは、試行するなら SCIS2014 や FSS2015 が適していると思われるが、これらは夏休み開催ではないので、学生が来ることができないのではないかと意見があった。そのため開催するには、事前に連絡をして、教員同伴で参加してもらうように依頼する必要があることも指摘された。

- ・林副会長からは、高校に行くというより、SSH(JST)の発表会に出すという方向が良いのではとの指摘があった。あと、企業に対する啓蒙活動をどう考えるかが重要で、訪問先の企業に法人会員になってもらう協力をお願いしてはどうかとの意見があった。学会にとっても企業のニーズを把握するのは重要な意味がある。
- (11) 理事会選出規程と評議会規程の改訂（馬野）（資料 202-13：当日配布）
- ・馬野会長より、表記規程の改訂について、選出過程と改定案についての説明がなされた。主なプロセスとしては、9月に理事等推薦委員会と選挙管理委員会の決定、10月に推薦受付の公示、12月に推薦締切、1月に投票の締切、6月の総会で承認、を予定している。
 - ・引き続き、理事等選出規程と評議会規程の修正の説明があり、理事会から3名、評議会から2名で推薦委員会を構成することが再度確認された。
- (12) SOFT CR 利用規約とプライバシー・ポリシーについて（関）（資料 202-15）
- ・関理事から、表記の件について現状報告がなされた。プライバシーポリシー（以下、PP と略記）については特に文言などの問題はないと思われるとの説明があった。「その他」の連絡用メールアドレスは事務局にしておくことになった。
 - ・利用規約と PP については臨時総会では紹介だけして、意見を聞いておくことになった。PP は暫定版を SOFT-CR 公開の際に呈示し、正式には来年度の総会で承認してもらう。利用規約は公開までに意見をほしいと臨時総会で伝えておき、公開時に確定することに決まった。
 - ・馬野会長の意見により、本サービスの略称を「SOFT CR」ではなく「SOFT-CR」とすることになった。正式名称は「ソフトウェア等公開サービス」とすることになった。
 - ・今後、公開に際して運用の便宜を図るため、提供されたソフトウェアにすべて ID をふって管理することになった。この ID で公開時のダウンロードファイル名なども統一することになった。
- (13) 第6回 CI 研究会における奨励賞について（関）（資料 202-16）
- ・関理事より、SOFT との共催で開催する SICE の CI 研究会（黒江先生）の日程案についての紹介があった。現在、奨励賞を SOFT として出すかどうかを打診されていることも報告された。SOFT の賞を取った場合に会員になってもらうこともできるメリットがある。
 - ・林副会長からは、今後も同様の合同開催が継続できるかどうかの問題であるとの指摘があった。SOFT の賞を出すことについては、今後、合同開催の継続性が確認されたら実施することにし、今年度については様子を見ることになった。
- (14) JACIII および SCIS について（林）
- ・林副会長より、JACIII（国際雑誌）と SCIS（国際会議）の位置づけについて明確にしておく必要があるとの指摘があり、全員で意見交換を行った。
 - ・林副会長からは、SCIS の作業検討が FSS に比べて遅れている。できる限り事務局委託にするため、作業工程表を早急に埋めないといけないとの指摘があった。これに関して、工藤理事が主導で SCIS 業務の事務局依頼を検討することになった。工藤理事がまず今年の SCIS の実行委員の中で担当者を決めるところから始めることになった。
- (15) 学会法人化について（林）
- ・林副会長より、他学会の報告があり当学会も法人化の有無を再度検討する必要があるのではないかと発言があった。
 - ・本件については、理事会の今後の検討事項とすることになった。

4. 次回理事会について

今後の理事会は、11月と1月頃で開催することになった。日程調整は別途行う予定。